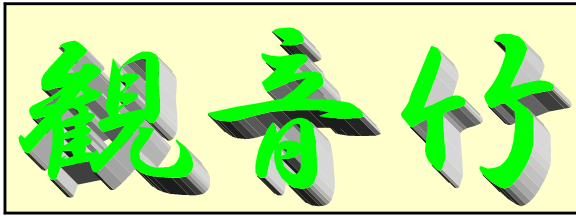


【学校教育目標：自他を大切にし、自律できる八幡小の子どもを育てる】



--- 9月の目標 ---

生活：時間を守り、友達と仲良く過ごそう
保健：じょうぶなからだをつくろう
安全：安全に気をつけた歩行や自転車の乗り方をしよう

令和4年 9月号
R4. 9. 1発行

<http://eshachiman.synapse-blog.jp/hachimanes/>

一人一人の学びのストーリー

長い夏休みが終わっても、新型コロナウイルス感染は収まりません。行事の多い2学期です。このような状況ですが、どんな状況でも前向きに考え、できることをしっかり取り組んでいきたいと思えます。

さて、私が子どもたちの授業の様子で気になっていることがあります。それは、正解にこだわり過ぎるということです。正解することがよくないということではありません。「正解と違う答えはだめだ。」というように思っている子どもが多いと感じています。自分なりに考えてたどり着いた答えが正解でないと気づくと、慌てて自分の答えを消して正解を写したり、落ち込んでしまったり、ついには泣き出してしまったりする子どもまでいます。ただ、子どもたちがこのような姿は、これまでの学校の取組にも原因があると思っています。

「分からない」「ここまでは分かったんだけど」

本人がその子なりに一生懸命考えてたどり着いたなら、これも立派な答えなのです。子どもたちがその子なりに一生懸命考えて出した答えは、例え正解でなくても、とても貴重で大切な答えなのです。その答えにたどり着く道筋を周りの友達に語り合えることができれば、さらに素晴らしいです。

自分の答えを慌てて消して正解を写した子どもは、「自分は違ったのだ」という自己否定した状態で次の学びに進んでしまいます。このようにしてしまう子どもは、納得することなく、この問題はこう答えるんだとあまり考えずに写すだけになってしまいます。

「その子なりに一生懸命考えて出した答えから、どのようにゴールへ向かうのか。」
「課題のゴールへ向かう時、周りの友達とそれぞれの異なる答えを尊重し、語り合う。」
すると、学びはさらに深まっていきます。この学びが深まっていく道筋が学びのストーリーです。学びのストーリーは、一人一人異なるはずですが、ほぼ同じということはあるかもしれませんが、だからこそ、この学びのストーリーには異なる答えを持つ他者が必要です。つまり、学級の友達を始めとして、八幡小の全ての子どもたちがお互いに大切な存在なのです。現在、このような授業づくりを目指して取り組んでいます。

今後も、地域や保護者、皆様と語り合い、一緒に考えながら取り組んでいきましょう。子どもたち一人一人が時代の変化を前向きにとらえ、よりよく生き、そして、よりよい社会を創っていくために。

